

令和2年度第2回 千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：令和3年3月19日（金） 午後1時30分～3時10分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、本郷副会長、今井委員、佐野委員、椎名委員
（千葉市史編集委員会代表）

池田委員長

（事務局）

佐々木生涯学習部長、佐久間文化財課長、

天野郷土博物館長、芦田副館長、錦織主査、土屋主任主事

4 議 題

- (1) 令和2年度事業報告について
- (2) 『千葉市歴史読本（仮称）』について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 令和2年度事業報告について
令和2年度事業報告について説明した。史料調査・収集・整理事業、普及事業、刊行事業などについて議論が出された。
- (2) 『千葉市歴史読本（仮称）』について
歴史読本の概要について説明した。今後の進め方について意見が出された。
- (3) その他
特になし。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（錦織主査）より、千葉市史編さん会議設置条例第5条第2項の規定により、会議が成立する旨が告げられ開会。その後、資料の確認、佐々木生涯学習部長、吉田会長の挨拶に続き、設置条例第5条第1項の規定により、会長が議長となって議事に入った。

議題1 令和2年度事業報告について

令和2年度事業報告について、6つの項目に分けて、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：議題1は多岐にわたるので、まずは史料調査・収集・整理事業から入りたい。

今まで収集・整理した史料群にコード番号等は付けているのか。

事務局（芦田）：コード番号のようなものは付けていない。

吉田会長：今からでも付けた方がいいのではないかと思う。史料群の戸籍のようなもので、何番目の史料群なのかが端的にわかり、市民に対して史料群の収集・整理状況を伝える目安にもなる。最初から順番に番号を付与すると、3桁か4桁になるかと思うが。

今井委員：史料群によっては、1次分・2次分などがあるので、4桁にはならないと思う。

吉田会長：史料群番号、史料群名、概要、収集形態などが記載されたリストで、史料群を全部網羅し、ホームページ上で公開することを考えてはどうか。大きな財産だと思う。

今井委員：収集史料にある旧家の史料は、提供者が古書店などで購入したようであるが、史料を購入するまでの経緯が気になる場所である。

吉田会長：続いて刊行事業はどうか。『千葉いまむかし』については、同じ執筆者が次号も引き続き書くような感じを受ける。なるべく多くの執筆者に、原稿を書いてもらってはどうか。

事務局（天野）：できるだけ時代も執筆者も多岐にわたるように考えていきたいと思う。

吉田会長：例えば、「江戸と千葉」研究会の報告で取り上げた史料の紹介や、古文書講座で使用したテキストの翻刻史料を掲載するなど、市史編さん事業の成果も反映させることができれば、もう少し多様になるのではないかと思う。

事務局（天野）：翻刻史料と併せて、古文書講座の内容を紹介するような形なのか。

吉田会長：古文書講座でどのような史料を読んでいるのか紹介し、参加者にも講座を受講した感想などを短い文章で書いていただくとか。

事務局（天野）：少しでも事業の成果を活かせるようにしていきたいと思う。最近は近現代史料編を編集していることもあり、どうしても近現代分野の論文等を掲載する形になっている。

吉田会長：ニューズレターについては、近現代の内容を掲載する形でいいのではと思う。

『千葉いまむかし』の方は、若い研究者に寄稿していただければどうか。

本郷副会長：若手の研究者も少なくなってきた。

吉田会長：千葉市域をテーマの対象としている研究者は少ないかもしれない。引き続き、普及事業・研究事業などについてはどうか。市史研究講座のアンケート集計結果で批判的な意見というのはどのあたりのことなのか。

事務局（芦田）：会場の音響や空調などについてである。

本郷副会長：この時節に250人弱の応募があるということは、応募者がすごく熱心か、市史研究講座が浸透している証拠かだと思う。アンケート集計結果の応募動機をみると、久しぶりにこういったお話を聞きたいといったような意見もある。

吉田会長：講座をオンラインで開催するというのは難しいのか。

本郷副会長：受講する側の負担にもなる。高齢者が多いと難しいこともある。

事務局（天野）：高齢者の場合、オンラインの環境が無い方も多い。

吉田会長：逆に、若い人に聴いてほしいと思えば良いと思う。

事務局（天野）：若い人にもぜひ聴いてほしいと思う。また、学校の先生にも聴いていただきたいという気がしている。何らかの方策を考えていかなければならない。

椎名委員：オンラインの動画配信等で、いつの時でも講座内容を聴くことができる環境が整っていると良いと思う。

事務局（天野）：当館の千葉氏関連講座であるとか、千葉大学との連携講座は、当館ホームページの千葉氏ポータルサイトなどで、講演映像や講演録を見られるようにしている。市史研究講座でも、オンラインで聴くことができる状況になれば、いろいろな年齢層に受講してもらうことができると思う。

椎名委員：動画配信が難しくても、ホームページ上に講座資料を掲載して見ることができると、学校の先生が授業を行うときの参考にもなる。中学校に1人1台ずつタブレット端末が導入され、どのように活用しようか検討している段階まできている。オンライン

の環境が整備されていると、生徒に対してタブレット端末で該当の資料を見せることもできるので、非常にありがたいと思う。

本郷副会長：その場合、講座資料に掲載する図版や史料などの権利関係については、適切に処理しておかないといけない。

吉田会長：学校教育現場を含めた講座になると、可能性は広がると思う。

池田委員長：千葉市内の公民館では、歴史講座などを年に数回開催している。各公民館で地域の歴史をテーマにした講座の依頼が博物館があれば、市史編集委員などが出向いて講演することができるかもしれない。公民館の歴史講座は受講希望者が多いようなので、公民館と連携すれば、地域レベルで歴史を学びたい人の希望に応えることができるのではないと思う。また、講座の開催日が土曜日・日曜日であれば、学校の先生や若い人も参加することができるかもしれない。

事務局（天野）：公民館の側も、どの方に講師を依頼していいのかといったノウハウがない。近現代史料編を編集しているので、これを契機に市史編集委員にも講座の講師をお願いできれば、公民館の側も喜ぶと思う。公民館の歴史講座は人気があるものの、どうしても同じ人が講師を引き受けることになってしまう。

今井委員：公民館の活動計画では、必ず歴史講座を実施するようになっている。私が講座を実施する場合、話を聴くだけでなく、話に出てきた場所を必ず巡見している。ある公民館では、午前中に座学を行って、午後は必ず話した場所を歩いている。

吉田会長：公民館で歴史講座のテーマや内容を考えているのか。

今井委員：千葉市の公民館は中学校区に1館ずつある。各地域で歴史に関わることは一つや二つあるはずである。

事務局（天野）：公民館運営に関わっている者に、今回出された意見は伝えようと思う。

吉田会長：新たな活動領域を増やすことができそうである。

池田委員長：新聞記事のデータベースに関して、将来的にデータベースの成果を活用する方法を考えていかななくてはならない。近現代史料編を編集する目的だけではなく、館内に検索スペースのような場所を設け、来館者も、新聞記事の検索ができ、場合によっては閲覧や複写ができるような形が良いと思う。そのためには、閲覧や複写に対応できる体制などの課題が出てくるかもしれないが、将来的には新聞記事のデータベースを上手に活用する方法を考えてほしい。

事務局（天野）：新聞記事に限らず、写真史料など、良いデータが豊富にある。大きな課題ではあるが、予算や人員が相当数必要になるのかと思う。史料をデータ化していくには、それを専従に近い形で作業できるような体制を組まないと難しいところである。ただし、誰もが、博物館あるいは自宅から史料のデータにアクセスできるようにするのが、本来のあり方だろうと思う。

池田委員長：他館ではこうしたデータベースを作成していないし、戦前の新聞記事は見出し目録もないので、大変貴重な作業をしていただいている。それを市民にも活用できるようなことを考えていただければと思う。

吉田会長：大きな課題が多く出ているようであるが、議題2に移る。

議題2 『千葉市歴史読本（仮称）』について

『千葉市歴史読本（仮称）』の概要について、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：では、議題2について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。執筆者は全て決まっているのか。

事務局（土屋）：決まっている。

本郷副会長：中世については、面白い内容になっているのではと思う。

池田委員長：近現代については、とりあえず歴史読本を優先的に進め、そのうえで近現代史料編第2巻目の編集作業に入る予定である。

吉田会長：今回の歴史読本は、近現代史料編の刊行完了後の事業継続に向け、非常に重要なポイントではないかと考えている。これがもし軌道に乗れば、市内区別ごとの地域編のような冊子をシリーズ化して順次発行していけば良いと思う。このような冊子を、公民館の歴史講座のテキストとして活用して、地域の人々に話すことができると良いと思う。そういった活動が、次の事業につながる。ある自治体では、約20か所の公民館があり、地域ブロック別に絵図や古文書を丁寧に読み解くような冊子を作成していて、公民館の歴史講座のテキストとして使用している。

事務局（天野）：他の政令指定都市では、各区の歴史について、区史のようなハードカバーの冊子を発行している。非常に優れていると思う。

今井委員：歴史読本のタイトルは、どのように考えているのか。

事務局（天野）：一般の人々が手に取ってみようと思えるようなタイトルにしたい。

今井委員：『千葉いまむかし』のタイトルは、「いまむかし」と平仮名が入っている。千葉市図誌も、「絵にみる図でよむ」というタイトルが入っている。いずれの刊行物も、吉田会長が提案したタイトルを採用している。

事務局（天野）：吉田会長のお知恵を拝借しながら、魅力的なタイトルを付けたいと思う。

吉田会長：他に何かあるか。佐野委員から何か意見があればお願いしたい。

佐野委員：本が刊行された際は、弊社でも取り上げたいと思う。楽しみである。

事務局（天野）：初めてのことなので、取り上げていただければありがたい。

吉田会長：他に何もなければ、議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

司会（錦織主査）の進行により、令和2年度第2回千葉市史編さん会議を終了した。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231